

The Yamaguchi Prefectural Museum of Art

山口県立美術館ニュース「天花」

095

contents

ピカソ展  
常設展  
年間スケジュール

# 天花

TENGE



植木茂(1913-1984)「体」1976年 木 166.0×73.0cm 山口県立美術館蔵

## 常設展

香月泰男室

## 「植木茂」

2/1 tue ~ 3/27 sun

## 表紙作品解説

植木茂 (1913-1984) 「体」 1976年  
木 166.0×73.0cm 山口県立美術館蔵

押しつぶされたような丸いかたちが三つ重なり、なんだか危なげな様子で細い首の上に乗っています。今にも全体がユラユラと揺れだしそうです。頭でっちなものが危うく立っている...そんなふうに見えるこの作品には「体」というタイトルがついています。そういわれてみれば、私たちのからだはこんなふう立っているものだ、と考えることはできないでしょうか。いろいろな考えをつめこんだ大きな頭を、細い首で一生懸命支えて立っているもの。危なっかしい足どりでやっと立っているもの。

私たちは日常生活のなかでさまざまなものを身につけています。服を着て靴を履いて、アクセサリーをつけたり化粧したり。さらには教養や知識も身につけて。けれどもそれらは、みんなもともとある身体に後からつけ加えられていったものです。もしそれらを全部取り払うことができたら、いったい何が見えてくるのか。作者は、すべての虚飾を取り去ったからだを表現しようとしたのかもしれない。

作品の表面全体には大小さまざまなノミで彫った跡がはっきりと残っています。それが作品に微妙な表情を与えています。作者、植木茂はこのような抽象的なかたちを生涯追求し数多くの作品を制作しました。

作品の周りを回ってもう一度全体を眺めてみても、やっぱり頭が重そうで、首の細さがとてもけなげに見える。...人間のからだって実はそんなものなんだよ、と言っている作者の声が聞こえるようです。 (当館学芸課長 斎藤郁夫)

ピ

20

[開館時

[観覧料

( )内は前

[主催]山口

[協賛]株式

[後援]フラ

[後援]フラ

パブロ・ピ

後も新し

る巨匠と

ミューズ

妻ジャク

ピ

作品で

晩年のピカ

支払いはす

好物は

ときたま、

スペイン・

はじめ

8歳(1889)

ピカドール

ピカソ

パリに出て

ピカソです

少しずつ生

最初はお金

慣れていな

内ポケット

用心深く持

たくさ

パブロの他

クリスピー

クリスピー

た  
ったのです。

1986

10  
月  
15  
日ジャ  
ク  
リ  
ー  
ヌ  
死  
去。  
享年  
60  
歳。ヌのお墓は  
ルク城にある  
墓の隣りに

## 郷土工芸室

「古萩の世界」~1/30

「萩の茶陶」2/1~3/27

茶陶としての萩焼の評価は、江戸時代を通じて確立されました。高麗茶碗写しをはじめとして様々な作品がつくられてきた茶碗、あるいは水指、花入など様々な茶の湯の用具が萩焼の独自性を作り上げてきたともいえるでしょう。近代以降の陶工や作家たちもまた、そこに伝統技術を学びつつ、新たな造形的表現を模索するジャンルとして茶陶を選び、現在の萩焼の魅力を形作っています。このたびは、絵付など装飾的な技法をおさえ、土味を生かした侘び茶にかなう茶陶としての萩焼の魅力を紹介します。



三輪休雪(11代)  
「萩茶碗」1987  
山口県立美術館蔵

## 小林和作記念室・資料展示室

「福田勝治の銀座」~1/30

「追悼 松田正平」2/1~3/27

飄逸味のあるフォルム、そして透明感のあるマチエール。1984年には、第16回日本芸術大賞を受賞するなど、晩年は、その明るくのびやかな人柄を髣髴とさせる画風で人気を博した画家・松田正平(1913-2004)。70年に及ぶその画歴は、東京美術学校(現東京芸術大学)に在学中、帝展に入選したことに始まります。時流に流されない淡々とした制作は一貫してはいるものの、その無造作とも言える線や色彩は晩年になるに従ってより奔放になっていきました。このたびは、初期から晩年にいたる画業を当館の収蔵品によって紹介いたします。



福田勝治  
「銀座」  
山口県立美術館蔵



松田正平  
「周防灘」1980  
山口県立美術館蔵

## 常設展示解説を始めました

美術館ボランティアが常設展示の作品をご紹介します。

毎週土曜日 13:00~

常設展示入場券をお求めの上、常設展示室入口にお集まり下さい。



# ピカソ

## 出会ってから

## ふたりが

1881

・10月25日、パブロ・ピカソ生まれる。

当時、ピカソは恋人フランソワーズ・ジローと南仏で暮らしていました。彼女との間には一男一女をもうけています。

1926

・2月24日、ジャクリーヌ・ロック生まれる。

ジャクリーヌはスペイン語を話せました。ピカソはとても喜んだそうです。

パロマ・ピカソはあ的高级宝石店ティファニーのジュエリーデザイナー

1952

・南フランス、陶器の町ヴァロリスで出会う。ピカソ70歳、ジャクリーヌは26歳。

1953

・ピカソ、フランソワーズと別れる。

1954

・1月 ジャクリーヌの顔がピカソのデッサン帖に始めて現れる。

1955

・カンヌに別荘を購入して、引っ越す。

1958

・エクサン・プロヴァンス近くのヴォーヴナルグ城を購入、引っ越す。

1961

・ムージャンに別荘を購入して、引っ越す。  
・3月2日 ピカソとジャクリーヌ結婚。

1963

・バルセロナにピカソ美術館開館。

1967

・フランス政府からレジオン・ドヌール勲章が授けられるが、辞退する。

1971

・ピカソ90歳の誕生日を祝って、現存作家の作品を展示しない方針のルーブル美術館グラント・ギャラリーで作品8点が展示される。パリの名誉市民になる。

1973

・4月8日 ムージャンにてピカソ死去。享年91歳。

ジャクリーヌのお墓はヴォーヴナルグ城にあるピカソのお墓の隣りにあります。

1986

・10月15日 ジャクリーヌ死去。享年60歳。

ヴォーヴナルグ城は、セザンヌがくり返し描いたサント・ヴィクトワール山のふもとにありました。この古城とまわりの土地を買ったとき、ピカソが友人の画商に「サント・ヴィクトワール山を買ったよ」と言ったところ、彼はセザンヌの絵と思いこみ「で、どれのことかね?」と聞いたそうです。

女性遍歴のはげしいピカソですが、結婚したのは二回だけ。1918年に結婚したオルガとは離婚できず、彼女が1955年に亡くなるまで法律上はずっと夫婦だったのです。

ピカソのアトリエはパリ6区のセーヌ川近くのグラン・ゾーギュスタン通りにありました。このアトリエをピカソに紹介したのは、フランソワーズの前の恋人、ドラ・マールです。

# ピカソ展

山口県立美術館開館25周年記念 / テレビ山口開局35周年記念  
幻のジャクリーヌ・コレクション  
—— イメージの変貌 la métamorphose de la forme

## 2005年1月6日(木) — 3月13日(日)

【開館時間】9:00—17:00(入館は16:30まで) 休館日:月曜日(ただし1月10日は開館、1月11日が閉館)

【観覧料】一般1200円(1000円) 学生1000円(800円)

( )内は前売りおよび20名以上の団体料金 18歳以下、70歳以上の方、および高等学校、盲・聾・養護学校に在籍の方は無料

【主催】山口県立美術館 / 毎日新聞社 / テレビ山口

【協賛】株式会社NTTドコモ中国 山口支店 / セキスイハイム中国株式会社 山口支社 / 全農 山口県本部 / 中国電力株式会社 / 新原弘産 / 富士商株式会社 / 山口県医師会

【後援】フランス大使館 【協力】日本航空 【特別協力】株式会社サビエルカンパニー

パブロ・ピカソ(1881-1973)。知らぬ者のいない世界的な大画家です。若くして名声を確立し、その後も新しい表現に挑戦し続けて91年の生涯を制作にささげた彼は、まさに20世紀を代表する巨匠といえるでしょう。このピカソの晩年20年間を愛情でもって支え、旺盛な制作活動のミューズ(美神)となったのがジャクリーヌ・ロック(1926-1986)でした。本展覧会では、最後の妻ジャクリーヌが相続したコレクションから、油彩、素描、彫刻あわせて130点を紹介します。

## ピカソ豆知識

### 作品でお支払い!

晩年のピカソは、仕立屋に洋服をつくらせても、支払いはすべて自分の作品ですませていました。

### 好物は何?

ときたま、ムージャンの町にカキとスペイン・ソーセージを食べに出ているそうです。

### はじめて描いた絵

8歳(1889年)のときに描いた《ピカドール》。ピカドールとは、闘牛士の役の一つ。

### ピカソとお金

パリに出てきた頃はたいへん貧乏だったピカソですが、絵が売れて少しずつ生活は楽になりました。最初はお金のたくさんある状況に慣れていないせいか、札束のはいった財布は内ポケットに入れ、さらに安全ピンで閉じて、用心深く持ち歩いていたそうです。

### たくさんの名前を持つ男

パブロの他に、ディエゴ、ホセ、フランシスコ・デ・パウラ、ホアン・ネポムセーノ、マリーア・デ・ロス・レメディオス、クリスピーン、クリスピアーノ、デ・ラ・サンティシマ・トリニダードという8つの名前が洗礼簿に記録されています。クリスピーンとクリスピアーノは、ピカソが生まれた日の聖人で、靴職人と手袋職人の守護聖人。

### 13歳で父を超えた!

ピカソの父ホセは美術教師で、才能ある息子パブロに、ときどき作品の一部をまかせていました。パブロが13歳のとき、いつものようにまかせた鳩の絵があまりに見事に描かれていたので、自分の絵筆、パレット、絵の具をすべてパブロに与え、自分はもう絵は描かないと宣言したというエピソードが伝わっています。

### ピカソの絵の値段は?

2004年5月、ニューヨークのサザビーズで史上最高の9千300万ドル(113億円)で《パイプを持つ少年》(1905年)が落札。

### 動物好き

ピカソは動物好きです。飼ったことのある動物は、犬、猫、亀、鳥、山羊、猿など。

### 遺産!

総額5億フラン?(当時の日本円で300億円?)

## 講演会

### 「恋愛とピカソ」

【講師】木島俊介(共立女子大学教授/群馬県立館林美術館館長)  
【日時】1月22日(土) 14:00~ 【会場】美術館講座室(無料)

### 「ピカソの芸術—キーワードは、“みんなちがってみんないい”—」

【講師】森川紘一郎(周南市美術博物館館長)  
【日時】2月5日(土) 14:00~ 【会場】美術館講座室(無料)

## ワークショップ

### 「シアワセのコバコをつくろう」 講師: 濱野由美(フェルト作家)

大切な人から贈られた大切なものをそとつみこむフェルトの小物入れをつくろう。  
【日時】1月29日(土) 10:00~16:00 【対象】高校生以上 【定員】20人(定員を超える場合は抽選)  
【申込締切】1月8日(当日必着) 【参加費】材料などの実費(500円程度)

### 「親子で楽しむピカソ展」

ゲームをしながらピカソのみみつを探ります。  
【日時】2月5日(土)、19日(土) 10:30~11:30 【対象】小学生以下とその保護者  
【定員】子ども10名+保護者(先着順) 【参加費】保護者の方のみ展覧会の観覧券が必要です。

### 「鉛筆でできること」 講師: 吉村芳生(美術家)

身近な筆記用具“鉛筆”を使った表現の可能性をさぐる3日間です。  
【日時】3月5日(土)/6日(日)/20日(日) 9:30~16:00 ※3日間とも受講できることが条件となります。  
【対象】高校生以上 【定員】15名(申込多数の場合は抽選となります) 【申込締切】2月5日(当日必着)  
【申込方法】官製の往復はがきかE-mailに、ワークショップ名、住所・氏名・年齢・電話番号を記入してお申し込み下さい。  
【申込先】〒753-0089 山口市亀山町3-1 山口県立美術館実技講座 「鉛筆でできること」係  
tel.083-925-7788 E-mail:a50702@pref.yamaguchi.lg.jp (件名:実技講座「鉛筆でできること」)  
ピカソ展HPからお申し込みができます。ピカソ展HP <http://www.yma-p.jp>

### 子どものためのギャラリーツアー

### 「ピカソとあそぼう わたしもピカソ」

美術館ボランティアと一緒に、ピカソの作品を楽しみます。  
【日時】毎週土曜日 11:00~ 申込不要 【集合場所】ピカソ展会場入口  
【参加費】保護者の方のみ展覧会の観覧券が必要です。  
あらかじめ観覧券をお求めの上、集合場所にお集まり下さい。

## 託児サービス

### ちびっこルーム(定員制・要予約)

会期中毎週木曜日(10:00~13:00)に無料の臨時託児所を用意します。利用する週の月曜日までに電話、またはE-mailでお申し込みください。

【ワークショップ・託児サービスの申し込み・問い合わせ先】  
〒753-0089 山口市亀山町3-1 山口県立美術館普及課  
tel.083-925-7788 E-mail:a50702@pref.yamaguchi.lg.jp

## 学芸員によるギャラリー・トーク

会期中の毎週日曜日 14:00~

## 関連イベント

申込は  
終了しました

定員に達した  
ため、締め切り  
しました

## ピカソ展 山口会場限定 オリジナルグッズ

展覧会のテーマ「愛」とピカソにちなんだオリジナルグッズです。  
若い作家たちがつくる「愛」あふれる“ラブ”なグッズでハッピーな毎日を!

特別展

常設展

4/6～5/23

【開館25周年記念】

没後30年

## 香月泰男展

—〈私の〉シベリア、そして〈私の〉地球—

5/25～5/28

臨時休館

6/1～6/6

伝統工芸新作展

6/25～8/1

【開館25周年記念】

平成大修理完成記念

## 周防国分寺展

—歴史と美術—

9/9～9/26

【開館25周年記念】

第8回やまぐち県民文化祭

## 第58回山口県美術展覧会

11/2～11/23

## 大きなやきもの

12/7～12/12 第57回学校美術展覧会

1/6～3/13

【開館25周年記念】

## ピカソ展

幻のジャクリーヌ・コレクション —イメージの変貌

5/29

現代の工芸

宮崎進

画稿の魅力

川田喜久治

7/4

7/6

ほとけのかたち

8/1

8/3

小さい彫刻たち

中本達也

絵巻の楽しみ

東松照明

9/26

9/28

古萩の世界

現代のやきもの

10/31

11/2

案本武雄

雪舟と雲谷派

11/28

現代の写真

12/12

12/14

福田勝治の銀座

1/30

2/1

萩の茶陶

植木茂

追悼 松田正平

3/27

## Information

### ■休館日

日曜日、月曜日、第1月3日は振替休日の場合は翌日休館  
年末年始（12月31日～1月3日）

### ■開館時間

9:00～17:00（入館は16:00まで）

### ■料 金

常設展：一般700円（中学生以下500円）

特別展：1,000円（中学生以下700円）

※1歳未満は別途に定めた料

常設展：特別展とともに、1歳以下と70歳以上および高等学校

・職業専門学校に在学する方等1,000円

教育文化週間（11月1日～11月7日）は全ての方が無料

山口県立美術館  
The Yamaguchi Prefectural  
Museum of Art  
〒753-0089  
山口市亀山3-1-1  
TEL:083-925-7738  
FAX:083-925-7700  
<http://www.pref.yamaguchi.jp/museum/>

